英語9　短い文章を読み、概要を捉える

次の文章は、留学生(exchange student)のジャック(Jack)が日本の学校で体験したことを題材にした【物語】です。「**【物語】のはじめから終わりまで、ジャックの気持ちがどのように変化したかをまとめたもの」として**最も適切なものを、＜解答欄＞の１から４までの中から１つ選びなさい。

【物語】

Jack studied Japanese at school when he was in Australia. The school decided to send him to Japan as an exchange student, so he was excited about studying in Japan.

At school in Japan, Jack made a short speech in Japanese. When he was speaking Japanese, he made mistakes. He thought his classmates did not understand his speech. He felt sad, but he finished his speech.

Later at lunch time, a girl came to Jack and said, "I'm Misato. Your speech was great! I was able to understand your Japanese." Jack smiled and said, "Thank you for your kind words." He felt happy. After that, he tried to use Japanese more.

＜解答欄＞

○ 1　Jack was excited about studying in Japan.
At school in Japan, he felt happy when he heard Misato's kind words.
Later, he felt sad during his speech in Japanese.

○ 2　Jack studied Japanese at school in Australia.
At school in Japan, he felt happy when he heard Misato's kind words.
Later, he felt sad during his speech in Japanese.

○ 3　Jack was excited about studying in Japan.
At school in Japan, he felt sad during his speech in Japanese.
Later, he felt happy when he heard Misato's kind words.

○ 4　Jack studied Japanese at school in Australia.
At school in Japan, he felt sad during his speech in Japanese.
Later, he felt happy when he heard Misato's kind words.

英語の文章の解説

この物語は、ジャックが日本の学校で体験したことを題材にしており、"when he was in Australia" "At school in Japan" "Later at lunch time" の３つの場面がある。"Jack studied …" "Jack made …" "a girl came …" は３つの場面での登場人物の行動、"excited" "sad" "happy" はそれぞれ３つの場面でのジャックの気持ちとなっている。物語のはじめから終わりまでのジャックの気持ちは、" excited " " sad " " happy " の順に変化し、それらをまとめたものが物語の概要となっている。

出題の趣旨

日常的な話題について、短い文章を読み、概要を捉えることができるかどうかをみる。

「概要を捉える」とは、物語文や説明文などのまとまりのある文章を最初から最後まで読み、一語一語や一文一文の意味など特定の部分にのみとらわれることなく、登場人物の行動や心情の変化、全体のあらすじ、書き手が述べていることの大まかな内容などを捉えることである。物語の概要を捉える際には、物語全体の時間の流れや場所などの場面に沿って、登場人物の行動や出来事と、その時の心情に着目して文章を読むことが重要である。また、説明文の概要を捉える際には、段落ごとに、その話題と主な内容を把握し、それらを段落間の関係に沿ってつなぐことが重要である。

英語9では、日常的な話題について、短い文章を読み、概要を捉えることができるかどうかを把握するために、物語を読み、物語全体を通した登場人物の気持ちの変化を表したものを選択する問題とした。

■学習指導要領における目標

読むこと

イ　日常的な話題について、簡単な語句や文で書かれた短い文章の概要を捉えることができるようにする。

■評価の観点

思考・判断・表現

■学習指導要領に示されている言語活動との関連

読むこと

(ｳ) 簡単な語句や文で書かれた日常的な話題に関する短い説明やエッセイ、物語などを読んで概要を把握する活動。

１．解答類型と反応率

問題番号			解答類型	反応率(%)	正答
9		1	**1** と解答しているもの	7.3	
		2	**2** と解答しているもの	14.9	
		3	**3** と解答しているもの	49.2	◎
		4	**4** と解答しているもの	28.5	
		0	無解答	0.1	

（N= 282,824 人）

２．分析結果と課題

○　正答率は 49.2%である。物語を読み、物語全体を通した登場人物の気持ちの変化を表したものを選択する本問では、日常的な話題について、短い文章を読み、概要を捉えることに課題がある。解答類型１の反応率 7.3%、解答類型２の反応率 14.9%と比較すると、誤答の中では解答類型４の反応率が 28.5%と高い。

○　解答類型２に該当する生徒は、１つ目の場面 “when he was in Australia” における出来事 “Jack studied Japanese at school” を捉えることはできているが、その時のジャックの気持ち “excited” を捉えることができていない可能性が考えられる。さらに、２つ目の場面 “At school in Japan” と３つ目の場面 “Later at lunch time” における出来事とジャックの気持ちを誤って捉えていると考えられる。

○　解答類型４に該当する生徒は、３つの場面に沿った出来事を捉えることができているが、物語の１つ目の場面 “when he was in Australia” におけるジャックの気持ち “excited” を捉えることができていない可能性が考えられる。

○　令和５年度【中学校】英語 7 （２）では、日常的な話題について、短い文章を読み、概要を捉えることができるかどうかをみるために、図書館について書かれた英文を読み、その概要として最も適切なものを選択する問題を出題し、正答率は 35.2%であった。今回の結果から日常的な話題について、短い文章を読み、概要を捉えることに引き続き課題があると考えられる。

３．学習指導に当たって

（１）「場面」、「出来事」、「登場人物の気持ち」を把握させる

物語を読んで、概要を捉えるためには、まとまりのある文章を最初から最後まで読み、特定の部分にのみとらわれることなく、登場人物の行動や気持ちの変化、全体のあらすじなど、大まかな内容を捉えることが重要である。

言語活動を行うに当たっては、「場面」、「出来事」、「登場人物の気持ち」を把握することが必要である。「場面」を把握するには時間的な場面の移り変わりや、空間的な場面の移り変わりを表す表現に着目して読んだり、「出来事」を把握するには動詞などに着目して読んだりすることが考えられる。「登場人物の気持ち」を把握するには、形容詞や動詞など明示的に心情が書かれている表現に着目して読むだけでなく、登場人物の言動などから「登場人物の気持ち」を推測

することも重要である。

授業においては、「場面」、「出来事」、「登場人物の気持ち」に着目して物語を読んだ後、ペアやグループで「場面」を確認し、「場面」ごとに「出来事」と「登場人物の気持ち」を整理する活動が考えられる。

例えば、英語9においては、“when he was in Australia” “At school in Japan” “Later at lunch time” という３つの「場面」ごとに、“Jack studied …” “Jack made …” “a girl came …” という「出来事」と、“excited” “sad” “happy”という「登場人物の気持ち」を捉えていくようにする。

文章を読んで概要を捉える際には、説明文や物語など読んでいる文章に応じた指導を行うことが大切である。例えば、物語の場合には、登場人物の気持ちの変化に沿ったあらすじを概要として捉えることが考えられるが、説明文の場合には、段落と段落の関係を捉えた上で、各段落の主な内容を集めたものを概要として捉えることが考えられる。このように、読んでいる文章に応じて様々な概要の捉え方を指導することが求められる。

（２）概要として最も適切なものを選ばせたり、物語の概要を英語で表現させたりする

物語を読んで、その概要を捉えることができたかどうかを確認するために、物語の概要としてまとめた複数の文章を読み、概要として最も適切なものを選ばせたり、物語の概要を話したり書いたりさせることが大切である。概要として最も適切なものを選ぶ際は、なぜ選んだ文章が概要としてふさわしいのか、グループや学級全体で検討することが考えられる。物語の概要を英語で書く際には、ある場面から次の場面への移り変わりに着目し、“then” “after that” などの表現を用いて書いたり、異なる登場人物の視点から物語の概要を書いたりすることが考えられる。これらの活動を行った後で、場面の移り変わりや、それぞれの場面での出来事の関連、登場人物の気持ちの変化などを整理し、概要を捉えることができているかをペアやグループ、学級全体で共有することが考えられる。

（３）言語活動の例

- 物語などの文章全体を読んだ上で、時系列に情報を整理したり、大まかな内容などを把握したりする活動
- 友人や教師が休日を過ごした中で感じたことが書かれた日記などを読み、出来事を時系列に沿って整理し、伝えようとしている内容を絵や簡単な英語で表現する活動

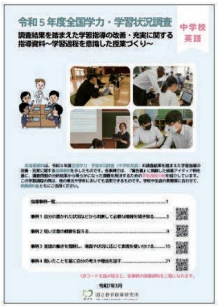
英語9は「聞くこと」と「読むこと」の違いはあるが、英語4と同じように「日常的な話題について、概要を捉えること」ができるかどうかをみる問題である。そのため、「日常的な話題について、話を聞き、概要を捉えること」ができるようにする指導も併せて行うことが考えられる。

○関連する指導資料　※画像をクリックするとリンク先にアクセスできます。

・中学校英語指導事例集（令和７年３月）
「短い文章の概要を捉える」

映像資料

指導資料



授業アイディア例２　短い文章を読み、概要を捉える

１．関連する問題の正答率

英語 9　正答率　49.2%　　調査問題（クリック、読み込み）

２．中学校学習指導要領における目標

読むこと　イ　日常的な話題について、簡単な語句や文で書かれた短い文章の概要を捉えることができるようにする。

3．単元計画

（１）単元の目標

考えたことや感じたことを伝え合うために、物語を読んで、概要を捉えることができる。

（２）単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・to 不定詞の特徴やきまりを理解している。 ・to 不定詞などの特徴やきまりの理解を基に、物語の内容を読み取る技能を身に付けている。	考えたことや感じたことを伝え合うために、物語を読んで、概要を捉えている。	考えたことや感じたことを伝え合うために、物語を読んで、概要を捉えようとしている。

※「記録に残す評価」は第８時と後日に行う。

（３）単元展開

時間	■ねらい	
	知 知識及び技能　聞 聞くこと　読 読むこと や 話すこと［やり取り］発 話すこと［発表］書 書くこと 促したい生徒の気付き、振り返り	※指導上の留意点
1 2	**■単元の目標を理解する。** 聞　教師が好きな物語の題名と主人公に関する情報を聞く。 読　教師が好きな物語の概要が書かれた文章を読む。 や　ペアでその物語の概要を読んで感じたことや考えたことをやり取りし、単元の目標を理解する。 考えたことや感じたことを伝えるために、物語の大まかな流れを捉えていこう。 知　to 不定詞の特徴やきまりなどについて理解し、物語のある場面を英語で描写する。	※物語の主人公の設定を明確にする。 ※概要として、場面、出来事、登場人物の気持ちが書かれている文章を提示する。 ※第３時以降も to 不定詞の指導を継続して行う。
3	**■教科書の登場人物が紹介している物語を読み、場面を把握する。** 読　to 不定詞を含む教科書の登場人物が紹介している物語を読み、どのような場面があるか把握する。 読　物語の流れに沿って場面ごとの絵を並べ替える。 読　絵の並び順の理由をペアや学級全体で共有する。その際、場面の移り変わりを表す表現を確認する。	※物語の概要を捉えるために、場面を把握することを確認する。 ※時間的、空間的な場面の移り変わりを表す表現に着目させる。

	読　並べ替えた絵を用いて、場面の移り変わりを表す表現を用いて、物語を再話する。 時間や場所を表す表現に着目すると、場面を把握できた。	
4	**■教科書の登場人物が物語について話している対話文を読み、それぞれの場面における出来事、登場人物の心情を捉える。**	
	読　to 不定詞を含む対話文を読み、出来事や登場人物の気持ちに触れながら、感じたことや考えたことを伝え合っていることを理解する。 読　第３時で扱った物語を再度読んで、場面ごとに出来事と登場人物の心情をワークシートなどに整理する。 や　物語を読んで、感じたことや考えたことをペアで伝え合う。 場面ごとに出来事とその時の登場人物の気持ちを整理していくと、物語の概要を捉えやすかった。	※場面ごとに出来事や登場人物の気持ちを捉えることが、物語の概要を捉えることにつながることを確認する。 ※出来事を捉えるために動作を表す動詞に着目したり、気持ちを捉えるために形容詞や登場人物の言動に着目したりすることを確認する。
5 6	**■日本人留学生の海外での体験記を読み、概要を捉える。**	
	読　日本人留学生の海外での体験記を読み、場面を捉え、ペアやグループで確認した後、学級全体で場面の移り変わりを表す表現を共有する。 読　それぞれの場面における出来事と主人公の気持ちを、ワークシートなどを使って整理する。 書　日本人留学生の海外での体験記を再度読み、ワークシートに整理した内容を基に、その概要を書いて、学級全体で共有する。その際、場面ごとの出来事と心情を捉えているかという視点で見直す。 や　日本人留学生の体験記を読んで感じたことや考えたことを伝え合う。 場面、出来事、登場人物の気持ちの順で書くと、概要を書くことができそう。	※時間的、空間的な場面の移り変わりを表す表現に着目して文章を読ませる。 ※概要を捉えるための支援として、それぞれの場面における出来事や登場人物の気持ちを整理するためのワークシートを用意する。
7 本時	**■中学生の体験記を読んで、その概要を捉える。**	
8	**■ALT の日本での体験記を読んで、その概要を捉え、感じたことや考えたことを伝え合う。**	
	読　ALT の日本での体験記を読んで、その概要を捉える。 書　ワークシートに整理した内容を基に、その概要を書いてまとめる。 や　体験記を読んで感じたことや考えたことを伝え合う。 これまでの学習を生かして、場面、出来事、登場人物の気持ちに着目して読むことで、概要を捉えることができた。	※第７時と同様の活動を繰り返し、生徒自身の力で概要を捉えることができるようにする。
後日	■ペーパーテスト　（令和８年度全国学力・学習状況調査　中学校英語9など）	

４．第７時の展開案

１．コミュニケーションを行う目的や場面、状況などを把握する

ポイント　意欲を高めたり、活動の見通しをもたせたりするために、「登場人物について考えたことを伝え合うために」というコミュニケーションを行う目的を明確にします。

生徒

We read two stories in the textbook. What do you think about them?

The story about a Japanese exchange student was interesting. I want to go abroad and try many things.

Mr. Li (ALT)

教師

Both stories were very impressive. Each character had interesting experiences. Then, I remembered a story of one student.

I'm interested in the story. Today read the story, and get the outline first. Later, talk about the characters. I want to know your thoughts about them.

２．物語を読み、場面ごとに分ける

ポイント　登場人物を確認した上で、個人で物語全体を通して読ませ、時間的な場面の移り変わりを表す表現などを手がかりにしながら、場面がどこで区切れるかを考えさせます。生徒自身が考えてまとめることができるようにするために、単元を進めるにつれて支援を減らしていきます。

When you are reading the story, underline the key phrases to get the outline.

Saki, a Japanese junior high school student, loved studying English. One Friday, her teacher asked her to make a welcome poster in English for the new ALT. He will come next Thursday. Saki felt excited to make it. She spent a lot of time for making the poster. Alex, her classmate, saw her making it. He was disappointed because their teacher didn't ask him to do it. Next Tuesday, while Saki was painting, Alex talked to her. At that time, he bumped into a bucket and spilled water on the poster. The pictures and letters disappeared, and she was shocked. The next day, Saki was going to the teacher's room to say she could not finish the poster. Then, Alex came and handed a new sheet of paper for the poster, and said "I'm very sorry, Saki. Let me help you." "Thank you," she said with a big smile.

今日は、自分で考えて場面を分けて、出来事や気持ちを整理しないといけないので、前の時間に使った表形式でまとめてみよう。

□

Scene	Event	Feeling
One Friday		
Next Tuesday		

生徒が書いたメモ（例）

生徒が自分で場面、出来事、気持ちを整理できるように、生徒の学習状況に応じて、第４時や第５時での学習を想起させます。

辞書や１人１台端末を活用し、自分に合った調べ方で分からない表現を確認させます。

時間的な場面の移り変わりを表す表現等に着目して場面を捉える

How many scenes are there?

There are three scenes.

What are the key phrases that change from the 1st scene to the next scene?

生徒

教師

They're "One Friday" and "Next Tuesday."

Are there any other scenes?

"The next day" is the last scene.

How about "next Thursday" in the 2nd line?

新しい ALT の先生が来る日のことで、場面は変わっていないと思います。
We have three scenes.

3．場面ごとの出来事と登場人物の気持ちを整理して概要を捉える

ポイント　概要を捉えるために、場面ごとの出来事と登場人物の気持ちの変化を把握させます。出来事を把握するために動詞に着目させたり、気持ちを把握するために形容詞や登場人物の言動に着目させたりします。

What happened in each scene? How did Saki feel then? Let's check in your groups.

① The 3rd scene started with the phrase, "The next day." What happened in that scene?

② Alex passed a new sheet to Saki and said, "Let me help you."

③ How did Saki feel? Was she still sad?

④ Look at the last line. "With a big smile". She felt happy.

３つ目の場面では、気持ちを表している形容詞はありませんが、Saki の言動を表す表現から気持ちを捉えることができましたね。That's an important point to understand the feeling of the character.

Scene	Event	Feeling
One Friday	make poster	excited
Next Tuesday	The pictures disappear	sad
On the next day	Alex passed a new sheet	

場面ごとの「出来事」「気持ち」を書き加えた生徒のメモ（例）

数名の生徒を指名し、場面ごとの出来事や気持ちの変化を整理して、概要を捉えることができているかを確認することで、４の活動へのステップとします。

Can you tell Mr. Li the outline of the story? What happened in each scene? How did Saki feel in each scene? You can check your notes on your tablet.

（まとめた表を見ながら）One Friday, Saki started to make a poster, and she was excited. Next Tuesday, Alex spilled water on the poster. So, she became sad. On the next day, Alex said, "I'm sorry" and he tried to help Saki. She was very happy.

概要を捉えることができているかを確認するために、次のような活動も考えられます。
・Saki や Alex などの登場人物の視点から物語の概要を伝える活動
・物語を読んでその概要を書く活動
・概要として書かれた複数の文章からふさわしい概要はどれかを理由とともに伝え合う活動

4．概要を踏まえ、考えたことや感じたことを伝え合う

ポイント　物語の概要を適切に捉えるとともに、概要を捉える必要感をもたせるために、出来事や心情の変化から、登場人物について考えたことや感じたことを伝え合うなどの活動を設定します。

You told me the scenes, events, and Saki's feeling, so I understood the story well. Now, let's talk about the characters. I think Saki is hard-working. Maybe she made a nice poster for the new ALT. What do you think about Saki?

Saki worked hard with Alex, and maybe they became good friends.

I think so too. How about Alex? What do you think about him?

Alex is kind. He passed a new sheet for the poster and tried to help Saki.

コラム②

【物語を読んで概要を捉えるために】

令和８年度調査 英語9は、留学生が日本の学校で体験したことという日常的な話題を題材にした物語を読み、「はじめから終わりまで、留学生の気持ちがどのように変化したかをまとめたもの」として最も適切なものを選ぶ問題です。中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説には、「読むこと」の領域で「概要を捉える」ことについて、「例えば物語などのまとまりのある文章を最初から最後まで読み、一語一語や一文一文の意味など特定の部分にのみとらわれたりすることなく、登場人物の行動や心情の変化、全体のあらすじなど、書き手が述べていることの大まかな内容を捉えること」(p. 21）と述べられています。これに基づくと、英語9のように物語の登場人物の気持ちの変化を読み取ることは、外国語科において「大まかな内容」、すなわち「概要」を捉えることの一側面と理解できます。

物語の概要を捉えるには、「登場人物の行動や心情の変化、全体のあらすじなど」を読み取ることが重要です。「登場人物の行動の変化」は動作を表す動詞などを手がかりに、また「全体のあらすじ」は、時間的、空間的な場面の移り変わりを表す表現や、段落の区切りなどをたどりながら捉えることができます。そして「登場人物の気持ちの変化」を読み取るためには、文章に含まれる感情を表す表現などに着目しながら、全体を読み通すことが求められます。英語9でも、３つの場面それぞれにおける留学生の気持ちが “excited” “sad” “happy” という語で表されており、それらをすべて含めた選択肢を概要と判断する必要があります。

令和５年度調査 英語7（２）では、図書館という生徒に身近な施設を日常的な話題として設定し、その変化について述べた複数段落から成る説明文を読み、概要として最も適切なものを選択する問題がありました。説明文の「概要を捉えること」は、「ある話題について書き手が述べている具体や主張、理由、根拠などの大まかな内容を文章全体の構成に沿って読み取ること」（「令和５年度全国学力・学習状況調査報告書 中学校 英語」p. 48）と整理され、段落の区切りが、話題の切り替わりを捉える手がかりになります。この問題でも、段落ごとに話題と主な内容を把握し、それらを段落間の関係に沿ってつなぎ合わせていくことにより、文章全体の概要（大まかな内容）を読み取ることが求められました。

また、令和８年度調査 英語4でも、職場体験という日常的な話題についての発表を聞き、話し手が体験した順に絵を選択する形式で、概要を捉える問題があります。中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説には、「聞くこと」の領域で「概要を捉える」ことについて、「１つの話題に沿って話されるものなど、内容に一貫性のある英語を最初から最後まで聞き、一語一語や一文一文の意味など特定の部分にのみとらわれたりすることなく、全体としてどのような話のあらましになっているのかを捉えること」(p. 19）と述べられています。話し手が「いつ」「何をしたのか」を把握する手がかりになるのが、時や場面の移り変わりを表す表現（“In the morning” “After lunch” “Finally”）と、動作を表す動詞（“I made …” “I picked …” “I cleaned …”）です。

このように、まとまりのある文章の「概要を捉える」ためには、説明文や物語文などのテキストタイプに応じて、適切な手がかりをたどることが大切です。

さらに、まとまりのある文章の「概要を捉える」ことは、「要点を捉える」ことと深く関連しています。つまり、「一語一語や一文一文の意味など特定の部分にのみとらわれたりすることなく、文章全体を読み通す」（「中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 外国語編」p. 21）ことは「概要を捉える」ことと共通ですが、「要点を捉える」ためには、「聞くこと」では「話し手が伝えようとする最も重要なことは何であるかを判断して捉える」（同 p. 19）、「読むこと」では「文章から複数の情報を取り出し、どの情報がその説明の中で最も重要であるかを判断する」（同 p. 21）といった情報の精査や重要度の判断が含まれます。「概要を捉える」ことが、「要点を捉える」ことの基盤となることからも、その指導を丁寧に行うことが大切です。

中学校国語科では、第 1 学年において、構造と内容の把握の学習過程に位置付けられている文学的文章に関する事項として、「場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えること」があります。描写とは、物事の様子や場面、登場人物の行動や心情などを、読み手が言葉を通して具体的に想像できるように描いたものです。心情は直接描写される場合もあれば、人物の関係や行動、会話、情景などを通して暗示的に表される場合もあります。そのため、細部の描写にも着目しながら物事の様子や場面、行動や心情などの変化を丁寧に捉えていくことが求められています。

こうした国語科での学びを基盤としつつ、外国語科においても、描写を手がかりに心情を捉えるプロセスは共通しています。外国語科における心情の把握は、主に物語の「概要を捉える」ための一要素として位置付けられており、全体の流れに沿って心情の変化を捉えることが重視されます。ここでのねらいは、得られた理解を「自分の考えや気持ちを伝え合うための土台」として最大限に活用し、実際のコミュニケーションへと繋げていくことにあります。

では、「概要を捉える力」を実際の授業でどのように育むことができるでしょうか。まとまりのある文章の全体像をつかもうとする意識を育むために、時や場面の移り変わりを表す表現などをすばやく捉える読む活動を取り入れることができます。また、情報の整理を助けるためには視覚ツールが有効です。物語であれば登場人物の変化を折れ線で表してみたり、説明文であれば、段落ごとの要旨をマッピングしたりする活動ができます。さらに、捉えた概要に自分の考えや感想を付け加えて伝え合うなど「発信」へと繋げるプロセスの確立も重要です。

概要を捉えることは、それ自体がゴールではありません。把握したストーリーや主張を、キーワードを頼りに自分の言葉で語り直すリテリング、あるいは「自分ならこの場面でどう感じるか」を簡潔な英語で共有し合うといった活動につなげます。こうした発信の場を設定することで、生徒にとって「概要を把握すること」が、単なる読解作業ではなく、自分の考えを伝えるための「意味のある準備」へと変わっていきます。国語科との読みの共通基盤を大切にしながらも、外国語科ならではの「コミュニケーションを目的とした読み」を意識することで、生徒がより目的意識を持って英語の文章に向き合えるようになると期待できます。